

JAアルプス「ハトムギ」栽培こよみ

アルプス農業協同組合・富山農林振興センター 令和4年4月改定

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
主な作業	①圃場準備 額縁排水溝の設置 			② 土壤改良資材散布	③ 種子消毒	播種作業 (5月下旬～6月20日まで)			⑦病虫害防除 1回目 播種後25日頃 2回目 1回目の15日後頃			⑨高温乾燥時の畦間かん水 (7月中旬～9月上旬の間、随時)			⑩ 収穫 播種後120～130日頃(出穂後60日)			⑪ 収穫後の圃場の管理 フレールモアで刈株を裁			⑫ 次年度の作付け準備 額縁排水溝の設置		
	圃場を乾かし耕起・砕土の準備					④ 耕起・砕土 ⑤ 播種・施肥 ⑥ 播種時除草剤散布			⑧ 生育期の除草 1) 中耕培土 1回目 播種後25日頃 2回目 1回目の10日後頃 2) 除草剤散布									水不足で萎れる前に畦間かん			コンバインで収穫		

品 種 : あきしずく
播種時期 : 5月下旬～6月20日(厳守)

<播種前>

【① 圃場準備】

- ・連作を避けて作付け圃場をローテーションさせる。
- ・耕起前に雑草が多い圃場は、除草剤を散布する。

薬剤名	適用雑草	10a当り薬量／ 使用水量	使用時期 使用方法	使用回数
ラウンドアップ マックスロード	1年生雑草	200～500ml／ 50～100ℓ	耕起前 又は 播種前 (雑草生育期) 雑草茎葉散布	2

- ・額縁排水溝と基幹排水溝を早めに設置し土壌を乾かすことで、湿害を防ぎ発芽率を向上させる他、砕土率を高め除草剤の効果を高める。

【② 土壤改良資材散布】

- ・耕起前に石灰質資材を散布する。
粒状貝化石 150kg／10a

【③ 種子消毒】

- ・「葉枯病」や「黒穂病」の種子伝染を防ぐため必ず実施する。

10a当り種子量3kg + $\left\{ \begin{array}{l} \text{ベンレート水和剤} 20 \text{ 75g} \\ + \\ \text{水} 15\ell \end{array} \right.$

・10～15℃の水温で、72時間(3日間)浸漬する。
・浸漬終了後2日以内に播種する。

消毒終了後発芽しないように、よく水を切り風乾する。

浸種が長い場合や、水切りが不十分な場合は、発芽し、播種作業に支障が出る。



浸種中にネット内で発芽したハトムギ

<播種作業>

【④ 耕起・砕土】

- ・土壌が乾いた状態でゆっくり起こし、砕土率を高める。

【⑤ 播種・施肥】

- 播種
・播種時に、播種量、施肥量、播種深度を確認する。
播種時期: 5月下旬～6月20日まで。
播種量: 播種時期によって播種量を変更する。

播種時期	種子量
5月下旬～6月9日	3kg／10a
6月10日～20日	4kg／10a

播種深度: 3～4cm

○施肥量(側条施肥)

- ・「LPIはとむぎ専用」を基本とし、規定量が入りにくい場合は、窒素濃度を高めた「ハトムギー発N36」を使用する。

肥料名	N:P:K	施肥量
LPIはとむぎ専用	30-8-8	40～50 kg／10a
ハトムギー発N36	36-4-5	35～45 kg／10a

【⑥ 除草剤散布】

- ・播種後すぐに除草剤を散布する。

薬剤名	適用雑草	薬量
サターンバアロ乳剤 + ゲザプリムフロアブル	水田1年生雑草 + 畑地1年生雑草	500ml／10a + 200ml／10a
栽培期間中1回のみ	播種直後～出芽前 (雑草発生前)まで	10aあたり100ℓ散布 (2剤混合散布)

<栽培管理>

【⑦ 病虫害防除】

薬剤名	1回目(播種後25日頃)			2回目(1回目防除後15日頃)		
	薬剤名	倍率(倍)	必要薬量	薬剤名	倍率(倍)	必要薬量
パダンSG水和剤 (収穫14日前まで) + ロプラール水和剤 (収穫21日前まで)	1,500	100g	100g	パダンSG水和剤 (収穫14日前まで)	1,500	100g
対象病虫害	アワノメイガ、葉枯病※			アワノメイガ		
散布量／10a	(2剤混合して)150ℓ			150ℓ		

※ 1回目防除後、葉枯病が発生した場合はロプラール水和剤を追加で随時防除

- ・薬剤散布の際は、必ず展着剤(ハイテンパワー-10,000倍)を加用する。

【⑧ 生育期の除草】

- ・播種時に散布した除草剤は2～3週間で効果が切れるため、雑草が大きくなる前に中耕除草する。それでも雑草を抑えきれない場合は除草剤で処理する。



ギ

1) 中耕培土による除草

- ・培土は播種後25日頃とその10日後頃に最低2回は実施する。
- ・播種時に、目標施肥量を施肥できなかった場合は、培土時に「尿素5～10kg／10a」を施用する。

中耕培土の様子

2) 除草剤による除草(中耕培土で雑草を抑えきれない場合)

適用雑草	広葉雑草 (イネ科雑草には効きません)	1年生雑草
使用時期	雑草の3～6葉期 (但し収穫45日前まで)	雑草生育期(出穂前まで) (但し収穫60日前まで)
使用方法	雑草茎葉散布 又は 全面散布	畦間処理 (ハトムギにかけてはいけぬ)
使用量／10a	150ml (水70～100ℓで希釈)	600～1000ml (水100ℓで希釈)
使用回数	2回以内	2回以内

【⑨ 高温乾燥時の畦間かん水】

- ・高温乾燥で葉が萎れると生育不良になり、不稔粒が発生するため、土壌の乾燥に応じて畦間かん水する。

【⑩ 収穫】

- ・収穫適期は播種後120～130日頃、上位3節の子実の90%が茶褐色になった頃。



- ・大豆コンバイン 又は 汎用コンバインで収穫する。
・大豆コンバインの場合、1条刈りでゆっくり収穫する。

【⑪ 収穫後の圃場の管理】

- ・アワノメイガは、刈株の茎の中で幼虫が越冬する。越冬する幼虫を防除するため、茎が柔らかい刈株をフレールモアで細断し、耕起する。

【⑫ 次年度の作付け準備】

ハトムギ栽培のポイント